



子どもとメディア 北海道

子どもとメディア 北海道

第7号

2012年

1月発行



撮影:諏訪 「雪あそび」

子どもは風の子。寒くても外で遊ぶのが大好きです。
これこそ子どもの本当の姿なんだと感じます。

「高校生及びその保護者へのアンケート結果」特集号

・・・2ページ～8ページ

インストラクター活動報告と今後の予定・・・9ページ～10ページ

白老町に村田先生がやってくる・・・11ページ

子どもとメディア北海道会員大募集！！・・・12ページ

高校生とその保護者へのアンケート結果

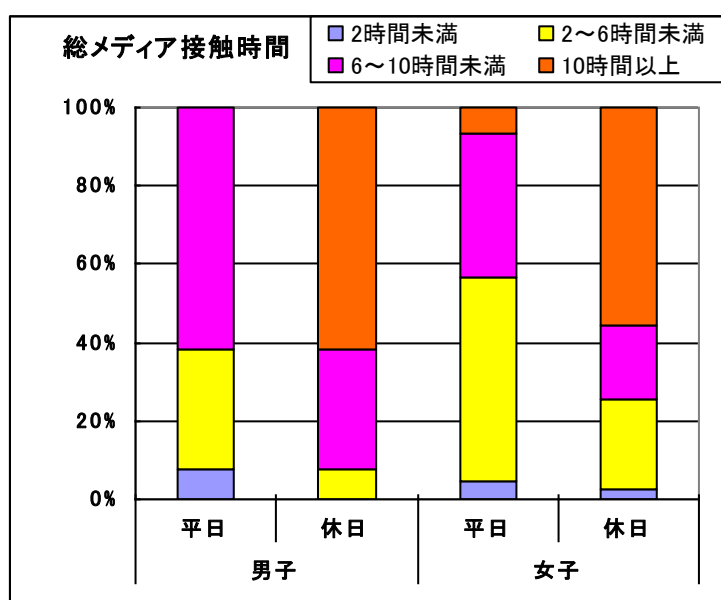
対象者 生徒 83 人 (男子 23 人・女子 59 人)、保護者 88 人

1. 自分専用のメディア

テレビ 31.7%、ビデオ、DVD デッキ 32.5%、テレビゲーム 40%、携帯型ゲーム 75.3%、PC 26%、携帯電話 97.5%

2. メディア接触時間

①総メディア接触時間 生徒回答



休日の方が平日に比べて長時間の接触がみられ、それは女子において顕著だった。

②テレビ視聴時間

テレビ	全体	
	生徒回答	保護者回答
わからない	0	8
2時間未満	17	24
2~4時間未満	28	37
4~6時間未満	13	5
6~8時間未満	5	0
8~10時間未満	2	0
10時間以上	3	0

子どもの接触時間がわからないと答えた保護者は10.8% (男子 14.8%、女子 8.5%)。保護者の認識は生徒自身の回答よりも著明に短時間であり、その傾向は女子において顕著であった。男女間の視聴時間は保護者回答、生徒回答とも差はなかった。

③ケータイ使用時間

* ケータイは女子において保護者が考えているより、男子が使用しているよりも長時間使用している。保護者が把握していない率は32.9%だった (男子 34.6%、女子 31.8%)。

保護者の認識は生徒自身の回答よりも著明に短時間であり、6時間以上使用していると考えている保

護者はいなかった。1日10時間以上使用している生徒は10/61人(16.4%)だった。

男女別の使用時間では、生徒回答において有意に女子が長時間使用していたが、保護者回答では男女に差はなかった。

	全体		男子		女子	
	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者
2時間未満	18	24	4	11	14	13
2～4時間未満	13	15	7	5	6	10
4～6時間未満	14	8	3	1	11	7
6～8時間未満	5	0	0	0	5	0
8～10時間未満	1	0	1	0	0	0
10時間以上	10	0	0	0	10	0
	61	47	15	17	46	30

④PCでのインターネット使用時間

*男子生徒は保護者が考えているよりも、女子よりも長時間PCでインターネットに接触している。保護者が把握していない率は全体の37.5%だった(男子25%、女子50%)。

保護者の認識は生徒回答より短時間となっており、5時間以上使用していると考えている保護者はいなかった。

	全体		男子		女子	
	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者
2時間未満	4	12	1	6	3	6
2～4時間未満	7	7	1	6	6	1
4～6時間未満	2	1	2	0	0	1
8時間以上	2	0	2	0	0	0

3. メディアを持つこと

保護者回答

(1) ゲームを持たせること

①ゲームを「持たせたほうがよいと思いますか」との質問に対して、

「はい」 33.8%、「いいえ」 63.6%、「どちらともいえない」2.6%だった。

ゲームを持たせて良いと思う年齢は小学校入学後が66.7%で最も多かった。

次いで中学入学後 13.3%、高校入学後 8%、高校卒業後 5.3%、3-6歳 4%だった。

②実際に持たせた時期

欲しがるので仕方なく持たせたと答えた保護者は62.7%にのぼった。

6歳以下が27.6%、7歳以上12歳以下 58.6%、13歳以上 13.8%。

年齢別では10歳 27.6%、6歳 20.7%、8歳 10.3%の順で高く、これらはニンテンドーDS、PSP、プレステ2、Xboxが発売された年代に一致している。

(2) ケータイを持たせること

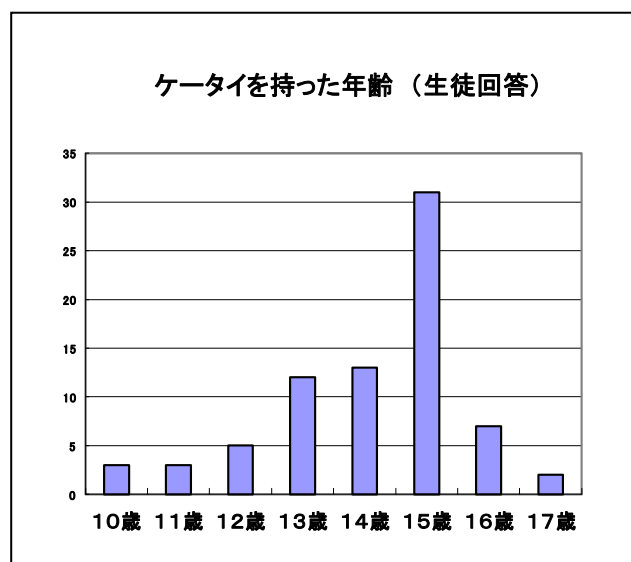
①ケータイを「持たせたほうがよいと思いますか」との質問に対して、「はい」 64.6 %、「いいえ」 34%、「どちらともいえない」 1.2%だった。ケータイを持たせて良いと思う年齢は高校入学後が多く75%を占めた。次いで中学入学後 17%、高校卒業後 7%、小学校入学後 1%だった。

②ケータイを持つ時期

ケータイを持つ時期は保護者が高校入学後(74.7%)との回答が最多であったが、生徒では高校入学後(46.2%)、中学入学後(42.3%)がほぼ同じであり、保護者と生徒の考えには大きな隔たりがあった。

	生徒	保護者
小学校入学後	6	1
中学校入学後	33	14
高校入学後	36	62
高校卒業後	3	6

	生徒	保護者
必要性が出てきてから	51	76
社会的な力が持てるようになってから	31	34
考えたことがなかった	4	0
よく分からない	7	0



(3) ケータイ料金の支払い

1. 誰が支払うべきか

生徒は自分自身で、保護者回答では保護者が支払うべきとの意見が多かった。

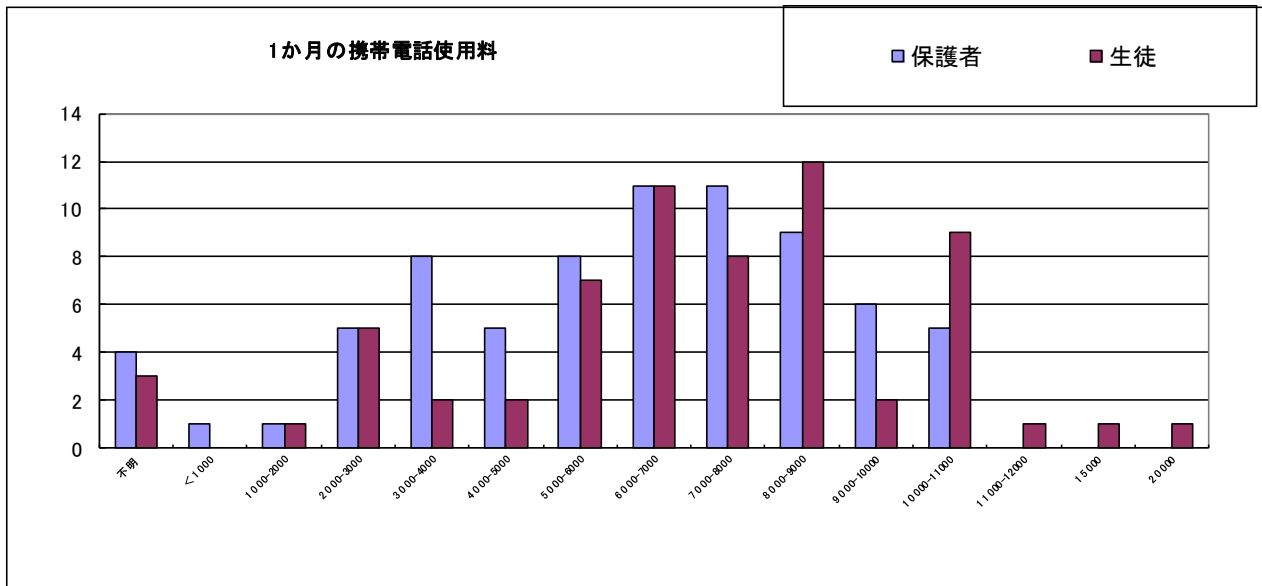
	全体		男子		女子	
	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者
保護者	20	47	4	21	16	26
自分	57	33	17	9	40	24
両方	1	3	0	0	1	3

2. 保護者が料金を支払っている場合、携帯電話は保護者のものか

保護者、生徒回答とも保護者のものではないとの意見が多く、とくに男子で顕著だった。

3. 1か月の使用料金

保護者が考えているよりも実際の利用額は高額であった。



フィルタリングについて

1. フィルタリングは必要か

保護者の74.3%、生徒の44.4%が必要と答え、生徒と保護者の考えに差がみられた。とくに女子の保護者で必要との意見が高かった。

4. ネットトラブル

(1) 経験の有無

保護者の8.5%、生徒の11.3%が経験あると答えた。

トラブルを経験したと答えた生徒は全例、誰かに相談していた。

内容は、チェーンメール、高額請求、架空請求、ウイルスが入った、メールが1日100件届いたりした、ケンカになりかけた、嫌がらせを受けたなどであった。

5. ブログ、プロフの開設

(1) ブログ 女子の開設率が高い

男子14.3%、女子49%。

(2) プロフ 男女差少ない。

男子25%、女子43%。

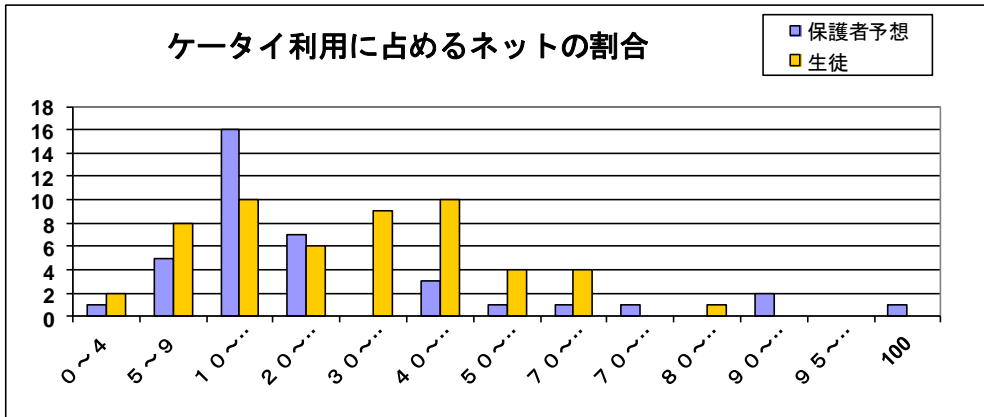
(3) SNS 加入 男女差少ない。

男子26.3%、女子44.6%。

複数に加入している率は加入している男子では全員、女子では24%。

ケータイの使用内容

保護者の予想と生徒の回答の差は、通話、メール、ゲーム、その他では有意差はみられなかった。ネット利用では生徒回答において有意にケータイ使用に占める割合が高かった。

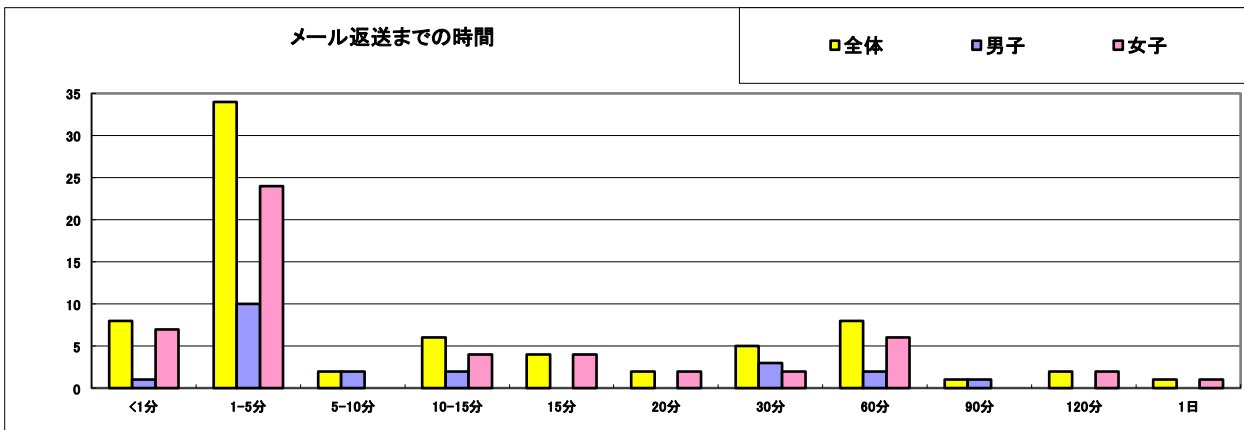


生徒回答

メールについて

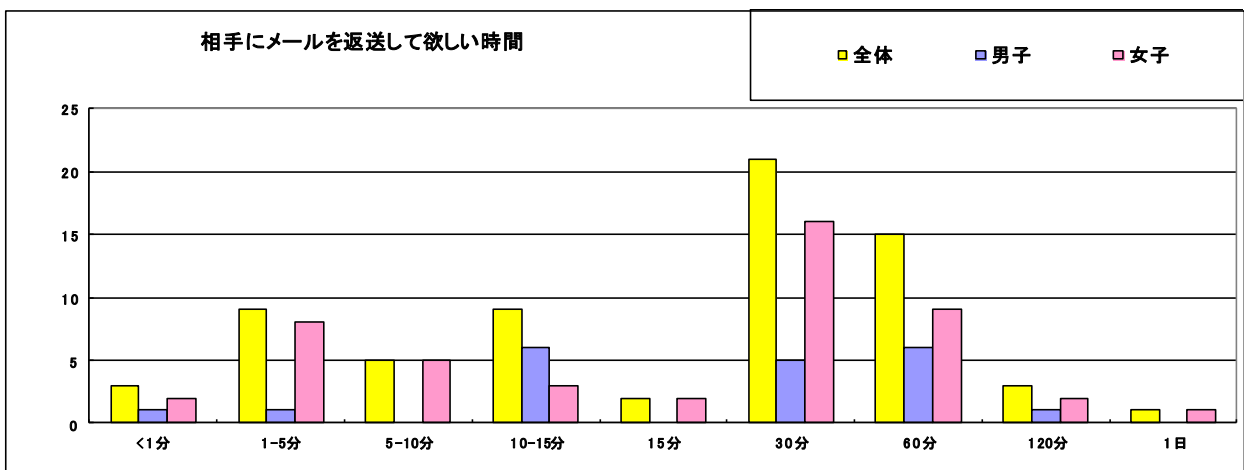
1. 相手への返信までの時間

メール返信までの時間について暗黙のルールがあるとの回答はなかった。



2. 相手にはどれくらいで返信してほしいと思うか

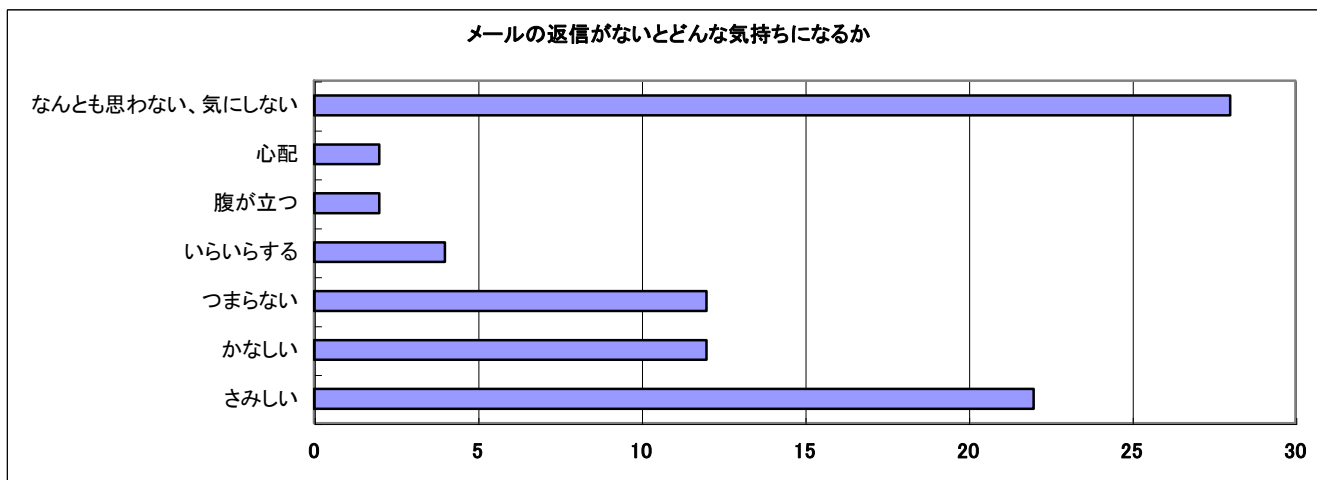
男女差なし。



3. メールが気になって手元にケータイをおいておくか

はい 48% (男子 42.9%、女子 50%)

4. メールの返信がないとどんな気持ちになりますか



ネットゲームの経験

はい 56.4% (男子 68.2%、女子 51.8%)

2~3時間が最多で35.5%、1時間未満32.3%、1~2時間16.1%と続く。

男女間で大きな差はなかったが女子がより長時間使用している例がみられた。

ケータイ、ネット、ゲームの使用について感じていること、困っていることなど

生徒回答

《男子》

* 学校に携帯電話を持ってきている人間の気が知れない。学校は私事の場合ではなく公事の場合であることをわきまえてほしい。

《女子》

* ケータイ上のサイトに何を書き込まれているか不安。例) 友達とけんかしたときに中傷になるようなことが書き込まれてなきやいいけど。

* ネットのダウンロードサイトで有料と表記されていない時があります。有料と表記されていないのに有料のときがあるので安易にダウンロードすることができません。

* すごい出会いの工場

* やっていいことといけないことのグレーゾーンがはっきりしない。

保護者回答

《男子》

- * すぐやめて欲しいときにやめることができないゲームについては困ることが多い。
- * いまだにパソコンがないので、そろそろ入れたほうがいいのかやんでいます。先生方もパソコンありきの話をされるので困ります。(子どもは別に欲しがってはいませんが)
- * 疲れていてもメール返信などでケータイを離さない。ねる直前までそばにおいてある。本当は良くないと思うが自分も思い当たるところがあるので子どもにおおっぴらには言えない。まず親がきちんとしなければだめですね。
- * 無料などといったはいるが始めの方だけ。もっと進みたいやりたいと思うと色々なアイテム(?)などちょこちょこ買うことに。結局ケータイ料金にはね返る。それなら TV ゲームをした方がいい。ひまつぶしでなぜゲームを?ケータイには必要ないと思う!!
- * 子どもにとってなくてもなら生活に支障がなく、逆にメディアに操られていく子ども達を悲しく思っています。私の家では自己責任がとれるまで、判断できるまで、結局は社会に出てから自立してからで十分だと思っています。

《女子》

- * パソコンでネットの使用およびメール使用しはじめるとなかなか終了せず「あと 5 分」が 1 時間続くこと。
- * ネットで無料体験できるゲームがいつでもできるのでちょっと困る。
- * ケータイ、ネット利用料が高い。ケータイはほとんどの人が使っているので利用することになった。
- * 携帯をかたとき(食事、入浴中)も離さない。すぐに返信をしなければならないからという理由だが、友人間で納得しあえばいいはず。通信料も高いので固定電話を使うように言うが、友人がかけてくるからと言う。携帯会社も学生割引など売ることばかり宣伝せずに、使用マナー等も伝えてほしい。家族での対応ではバラつきがあるので社会でとりくんでほしい。
- * お風呂に入る以外はケータイを肌身離さず持っている。ケータイ依存症ではないと思うが少し心配だ。
- * ブログとかで他の人の悪口とか悲しませる事は危険だと思います。便利なのですが、使い方で残念なことがあるのがつらいです。
- * 時間や上限を決めて使用して欲しいと思う。ケータイの料金が先月より高かったりしても無関心なのが困る。(節約とかする気がない)

諏訪先生、ご苦労様でした。高校生自身のメディアとの関わりに関してのここまで詳しいデータは珍しいですし、加えて、その保護者の方にも協力いただいたこと大変貴重なデータです。

一通り目を通して感じたことを列挙してみますと。

- ・生徒の 6 割が休日 10 時間以上メディアを利用しているのは予想以上の長時間である。
 - ・親がゲームを持たせる時、6 割以上が「欲しがるので仕方なく与えた」という数字を変えたい。
 - ・携帯電話は保護者の物か、生徒の物か、生徒自身、保護者ともに考える機会をつくっては?
 - ・子どもに使用料を払わせることの問題点を伝えたい。
 - ・約半数が「メールが気になって手元に置く」というのは、依存していることである。その自覚は?
- ★会員のみなさまも感想など教えて下さいね! (中谷)

インストラクター活動報告と今後の予定

【活動報告】（10月～12月）

《諏訪担当分》

10月12日 士別市保育士会

乳幼児からの電子メディア対策 ～向き合い方と取り組み方～

10月13日 東川幼児センター

子どもたちにとって大切なもの ～食・寝・遊～

10月25日 旭川いずみ保育園

乳幼児からの電子メディア対策 ～向き合い方と取り組み方～

11月4日 上川中部こども緊急さぽねっと子育て支援者養成講座

心の発達とその問題 子どもの発達と電子メディア

11月27日 第52回旭川市PTA研究大会

ケータイ・インターネットと子どもたち 今、大人がすべきこと、できること

今年、当会が旭川大学と共同で実施しました園児におけるメディア接触についてのアンケート調査にご協力いただいた2施設と士別市の保育士さんを対象として講演をさせていただき、乳幼児の発達へのメディアの影響、その対策についてアンケートの結果をまじえてお話しさせていただきました。

いずれの講演会でも園児達のメディア接触の現状にとっても興味をもっていただくとともに、その深刻さに驚かされている参加者の方も多数いらっしゃいました。やはり、身近な子ども達の現状を知るといことは強いインパクトを与えると感じ、アンケート調査はやはり必要であり有効な方法であったことを実感しました。

また、旭川市PTA研究大会では講師としてお招きいただき100名を超えるPTA、学校の先生方が参加して下さいました。小中学生のケータイやインターネット使用の現状とその影響とトラブル、対策法について講演致しました。参加者の人数の多さからも関心の高さがうかがわれ、実際みなさん熱心に聴講して下さいました。講演後、ある中学校の先生から学校での講演依頼のお話しをいただいたときはとてもうれしく思いました。

今後、当会では小中学生を対象としたアンケートを計画していますが、この講演をきっかけに賛同していただける学校が現れてくれることを期待しています。

北海道における子どもへのメディア対策はようやく緒についたばかりだと実感しています。残念ながらまだまだ意識は低く、ものすごいスピードで進化し続けるケータイ等のメディアから大きく引き離されてしまいそうです。でも今は急がずじっくりと根気強く、対策へのアクションを起こすための素地を作っていく時期だと考えています。取り組みへのしっかりと基礎さえできれば、しっかりと対策が継続できるはずです。

まずは身近な子ども達の現状を知ってもらい、次はどのようにこの結果をフィードバックして各家庭、各園、各学校、各自治体でメディア対策をどう進めていくのかを考えていかなければなりません。

知識を持っていても実践していかなければ子どもたちがおかれているこの現状はなんら変わりません。小さくてもいいから何かアクションを起こそう、そして継続していこうといった強い意志が我々には必要です。

【諏訪】

《中谷担当分》

10月8日 芽室 育児ねっと芽室 支援者保護者対象
10月18日 白老町高齢者大学
10月21日 別海町教育委員会 支援者対象
10月26日 追分小学校 就学時健診時保護者対象
11月1日 早来小学校 就学時健診時保護者対象
11月25日 札幌市桑園幼稚園 保護者対象
11月29日 札幌市藤野中学校 PTA対象
11月30日 和寒町PTA連合会子育て講演会
12月2日 ニセコ町PTA連合会子育て講演会
12月10日 共和町幼児センター 保護者対象

メディアとの接触時間が長くなってしまふことで、子どもの発達段階のそれぞれの時期に必要な時間が奪われてしまふ。特に私の訴えたいのは、親子の楽しい対話の時間がなくなってしまうことへの無念さです。

聞いて下さる方々に、なるほど！と納得していただけるよう頑張ります。【中谷】

【今後の講演予定】

2012年

1月19日 14時～16時 北海道浦河保健所 日高少子化対策圏域協議会
「携帯電話やゲーム等が及ぼす子どもへの影響～地域での取り組みを考える～」
1月20日 10時～11時半 恵庭市民会館 恵庭市
「子育て男女のチャレンジセミナー・親の心の基地、子どもの心の基地」
2月9日 19時～20時半 中札内村農村改善センター 中札内村PTA教育講演会
「思春期を見通した子育てのコツとヒント」
2月11日 10時～12時 岩見沢市 NPO 法人子どもサポートセンター「いま、ここ」
「子どもとメディアのよい関係～大人のできること、すべきこと」
2月27日 10時～12時半 当別町総合保健福祉センターゆとろ
「少子化フォーラムinとうべつ～地域で支え合う子育てへ～」

～福岡でNPO子どもとメディア主催のフォーラムがあります～
子どもとメディア日韓共同フォーラムin福岡

いっしょに
参加しませ
んか？

「メディア中毒」からの脱出

- ★2月18日(土) 13時～17時 福岡明治安田生命ホール
基調講演「韓国におけるメディア(ネット)中毒対策」コ・ジョンヒョン
韓国女性家族部「ネット中毒治療キャンプ」インターネットレスキュースクール
- ★2月29日(日) 10時～16時 アクロス福岡イベントホール
日韓「脱メディア」実践交流(各国3事例の実践報告)
シンポジウム「メディア中毒」に立ち向かう

*詳しくは、NPO子どもとメディアのHPをご覧ください。中谷は、参加する予定ですので、関心のある方はお声かけください。

白老町に村田先生がやってくる！！

1月28日(土)13時30分から15時30分

白老町総合保健福祉センター(白老町教育委員会主催)

1月29日(日)9時00分から12時30分

白老町コミュニティーセンター2階(子どもとメディア北海道主催)

講師 旭川教育大学准教授(生活・技術教育専攻)

村田 育也先生

白老町の親御さん、園や学校の先生、子どもにとっての情報メディアの影響を一緒に考えてみませんか？ 大人が学びながら、子どもへの与え方やルールづくりをすることが不可欠な時代だと思います。

お会いできるのを楽しみにしています。



来年の1月28日29日に、村田先生をお迎えできるのに先駆けて、中谷が一足先に旭川教育大学まで出向き、村田先生にお会いしてきました。やさしい笑顔が印象的な先生でした。以下、先生との会話の中で特に印象的だった内容です。

『・・・私は、10年以上前から、小学校から大学までの情報モラル教育に関する教材をつくったり、本を書いたり、指導方法を考えて実際に実践したりしてきました。情報モラル教育とは、インターネットを利用する際、被害者にも加害者にもならないために必要な、社会的・法的・科学的な知識と態度を身につけさせることを目的としています。しかし、情報モラル教育には限界があると感じるようになりました。子どもには、複雑な人間関係を理解する力の限界と、責任能力の限界があるからです。特に、人間への信頼感を生活の中でしっかり育みたい小学校の時期に、「ネット上には、嘘をついたりだましたり、悪い誘いをしてくるかもしれない大人がいる」と指導する情報モラル教育は、それ自体が教育的な関わりではないと考えます。・・・ネット社会は大人の社会と教え、使わせない指導をすべきです。・・・』

では、私たち大人は子ども達にどう伝えていったらいいのか？

1月28日29日に、いっしょに村田先生の話聞いて、考えてみませんか？

詳しくは同封のチラシをご覧ください。会員のみならずぜひ参加してね！

子どもとメディア北海道会員大募集！！

子どもとメディア北海道 ホームページアドレス

<http://childmediahk.web.fc2.com/>

会員になると 会議などはありません。ゆるやかなネットワークです。

- ★ 情報誌が届きます（年間4回程度発行予定）。
- ★ 学習会や交流会にご参加いただけます。

申込方法

①初年度の方は、入会申し込み用紙にご記入ください

☆同封の入会申し込み用紙に必要事項を記入して、FAXで事務局まで送信ください。
代表・事務局へのメールでも受け付けます。（申込用紙の必要事項をメールに書いて返信ください）また、会費を郵便小為替で郵送される方は、封書で一緒にご送付ください。
☆入会申し込み用紙の送信と以下の会費の納入の確認をもって、情報誌の発送をさせていただきます。その年度にすでに発行されている情報誌は全て送ります。

②2年度以降の方は、年会費を納入ください。（5月末日まで納入いただけると助かります）

会費について 情報誌作成発行・事務費等に当てます

★年会費 1500円

★会費の納入方法は、代表・事務局への手渡し、事務局まで郵便小為替（1500円分）を郵送するかのいずれかをお願いいたします。

23年度の年会費は、昨年度より500円下げて、1500円とします。少しでも多くの方に情報誌を読んでもらいたいとの思いからです。ぜひご紹介下さい。

昨年度も情報誌の用紙は、元々事務局で持っていたものを使っていたのですが、今年度も何とか間に合いそうです。

事務局(中谷 通恵 なかや みちえ)

〒059-0908 白老郡白老町緑丘1丁目3-34

TEL/FAX 0144-82-2685

メールアドレス michie-n@plum.plala.or.jp

入会申し込み

お問い合わせは

こちらまで

